

静岡新聞

3 月 20 日
日曜日
春分の日

〒422-8033
静岡市駿河区登呂 3-1-1
静岡新聞社
電話 (054) 282-1111
月決め 2,900 円 本体 2,855 円
消費税 215 円
1 部 120 円 (消費税込み)
©静岡新聞社 2016
浜松総局 浜松市中区旭町 11-1
プレスタワー内
電話 (053) 455-3355
東部総局 沼津市魚町 1
サンフロント内
電話 (055) 962-0380

国の防災 研究者懸念

「教訓 生かせてない」9 割

震災アンケート

東京電力福島第一原発事故のように、地震や津波と原発事故が複合する「原発震災」が再び起きるとする回答が 60% 超に当たる 18 人の上った。研究者自身の判断の誤りや、社会との関わりの薄さを反省する声もあった。

アンケートは震災 5 年をきつかけに、2 月に地震や活断層、火山の研究者計 120 人に質問票を郵送し、27 人から回答を得た。ほとんどが実名の公表を了承した。地震などの専門家に対象を絞った意

地震や火山の研究者を対象とする共同通信のアンケートで、東日本大震災後も国としての防災対策の在り方は「根本的に変わっていない」として、教訓が生かせていないと懸念する意見が、回答者の 90% 近くを占めることが 19 日、分かった。回答した 27 人の研究者のうち 24 人だった。

▽関連記事 3 面へ

原発事故「起きる」6 割

彫りになった。26 人 (96%) が、想定を大きく上回る地震や災害が「今後も起きる」と答えた。反復や、課題を指摘する声として「(自分の研究が) 広く社会に関わっていることを自覚すること」「(鷲谷威名古屋大教授)、「科学の不完全性を認識した」(橋

本学京大教授) とのコメントが寄せられた。あらゆる事態に備えることは不可能だが「原発は想定外に備えなければならぬ」との意見もあった。原発事故を契機に発足した原子力規制委員会の審査など、原発の規制について 80% 近い 21 人が「体制や法律を強化するべきだ」と回答した。

震災を起こしたマグニチュード (M) 9 のような巨大地震について、16 人が「科学的に予測可能だった」と答えた。「不可能だった」の 7 人を上回った。国の防災上、巨大地震を事前に想定できたかどうかについては、22 人 (81%) が「可能だった」と回答。科学的評価が確定していないりスクでも、防災想定では柔軟に取り入れるべきだとの考えが多くを占めた。

震災を起こしたマグニチュード (M) 9 のような巨大地震について、16 人が「科学的に予測可能だった」と答えた。「不可能だった」の 7 人を上回った。国の防災上、巨大地震を事前に想定できたかどうかについては、22 人 (81%) が「可能だった」と回答。科学的評価が確定していないりスクでも、防災想定では柔軟に取り入れるべきだとの考えが多くを占めた。

「想定外想定して」

震災アンケート 研究者の警句

地震や火山の研究者を対象に共同通信が19日までに集計した東日本大震災5年アンケートでは、原発における想定外の災害対策を求め、地震や津波の歴史に向き合う重要性を指摘する声があった。

主な研究者コメントは次の通り。

【災害想定】

「原発は科学的想定外に備えなければならぬ」(瀬川一紀東大教授)

「想定外を想定しよう」(ロバート・ゲラール東大教授)

「今後も想定は必要で、不確実性の中で判断や行動をしなければならぬ」(今村文彦東北大教授)

「予測を上回る現象は起こらないとする考

え方を一新する」(鈴木康弘名古屋大教授)「山真人静岡大教授」【研究の課題】

研究者震災アンケートの結果

今のままでよい4

緩和すべきだ4

強化すべきだ77%

分からない15

想定外の災害は今後も起きるか

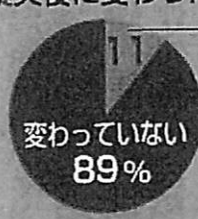


起きる96%

無回答4

変わった

日本の防災は震災後変わったか



変わっていない89%

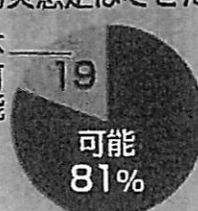
原子力規制はどう在るべきか



可能81%

不可能

巨大地震の防災想定はできたか



可能19%

不可能

合研究所主任研究員

「(自分の研究が)広く社会に関わっていることを自覚すること」(齋藤威名名古屋大教授)

【過去の地震・津波データの欠如】

「数千年単位の歴史を考える必要がある」(岡田篤正京大名誉教授)

「科学の不完全性を認識した」(橋本学京大教授)

「現代地震学が未熟」(小松原琢産業技術総

「もっと古いことを考えねばならない」(林能成関西大准教授)